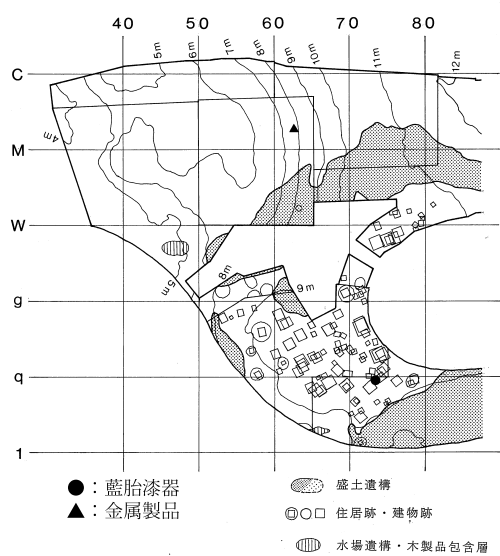
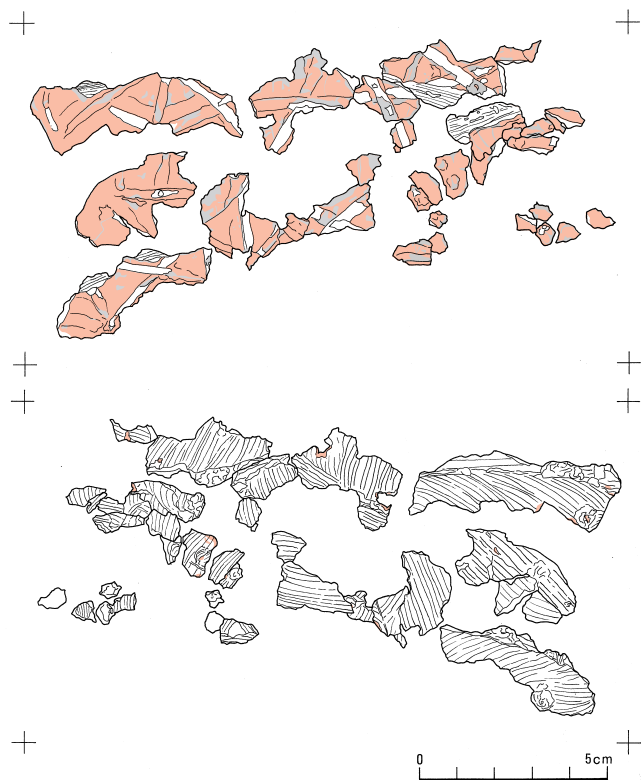


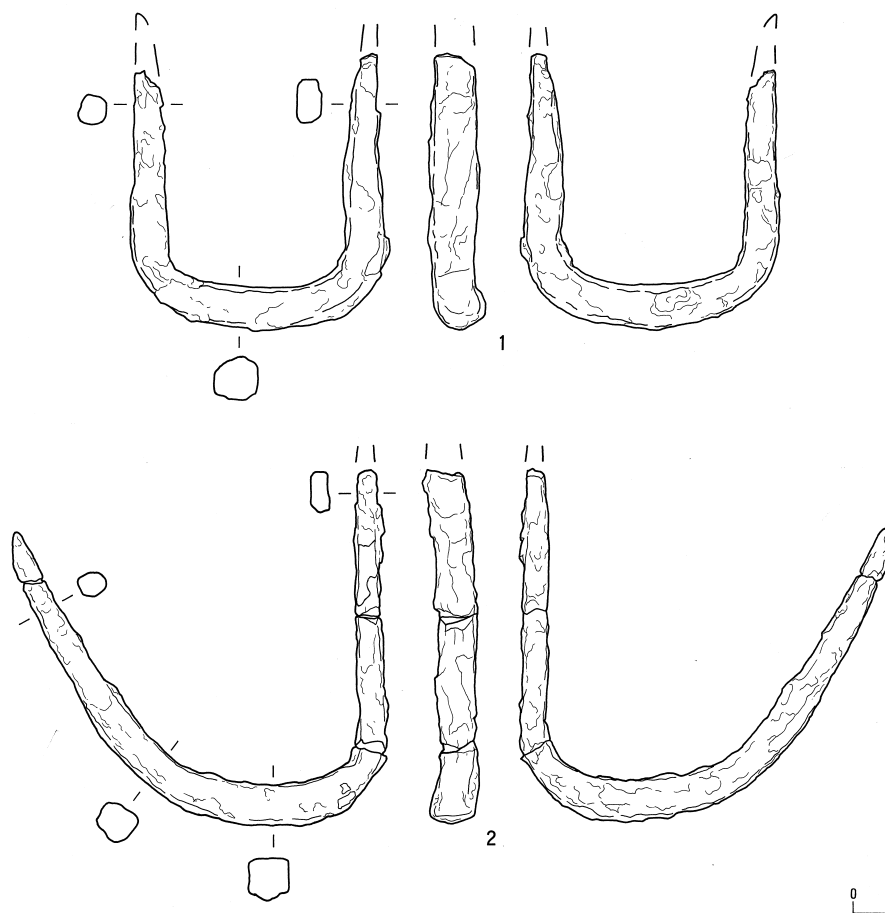
キウス4遺跡 (10)



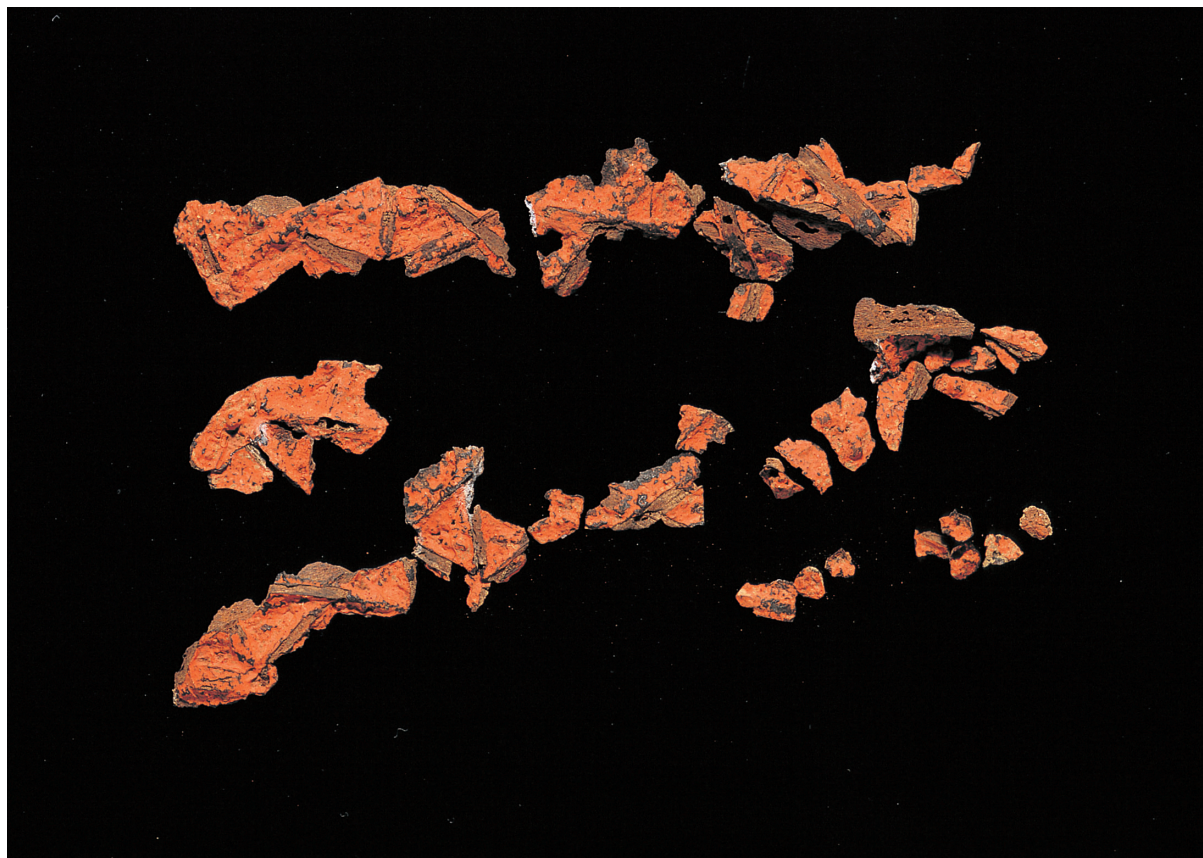
藍胎漆器と金属製品の出土地点



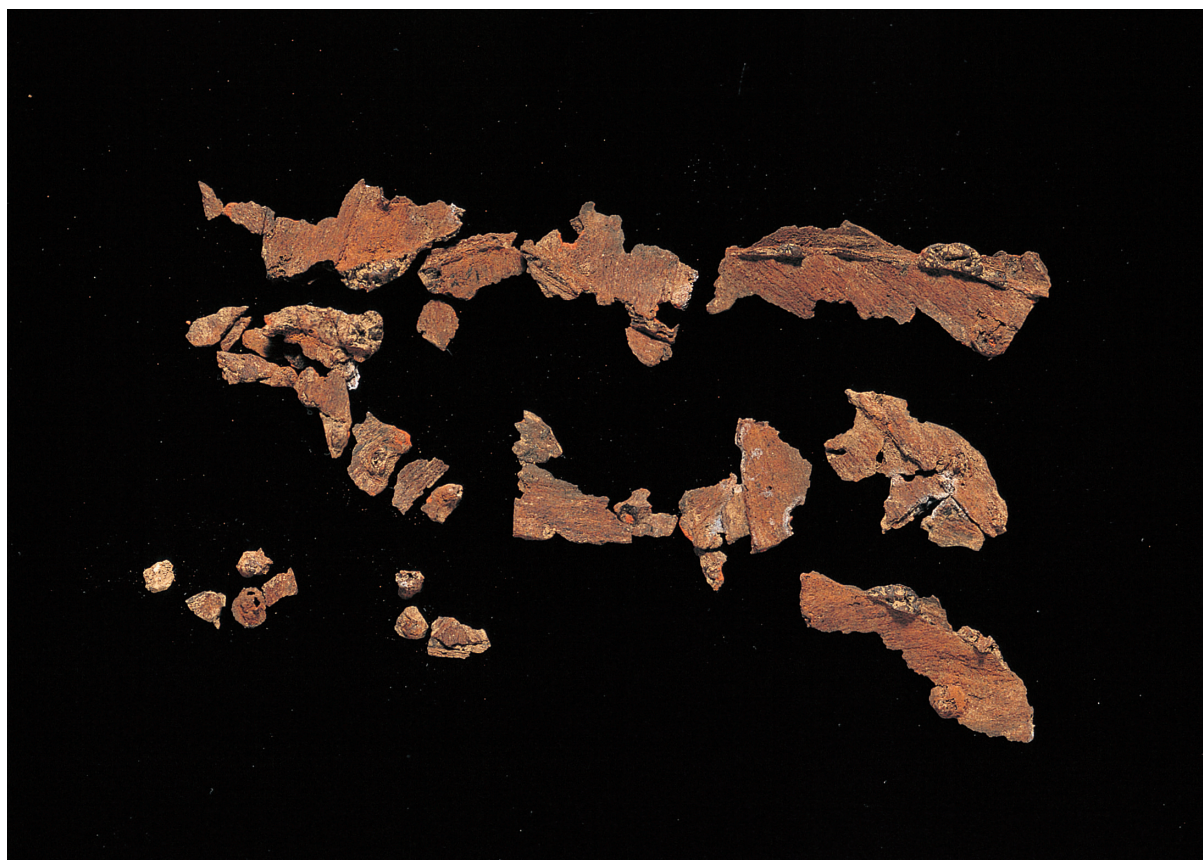
RLSP-118の藍胎漆器片 (上：表面 下：裏面)



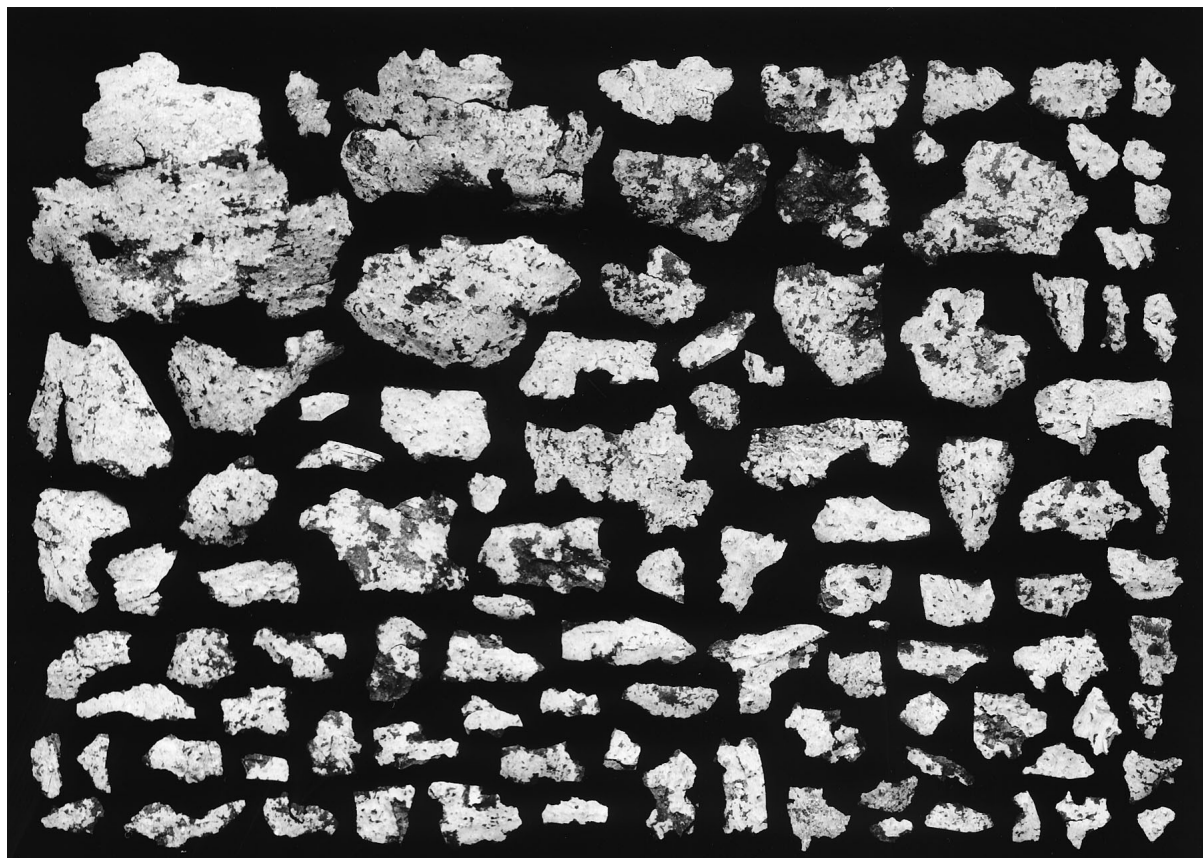
図Ⅱ-30 藍胎漆器片と金属製品



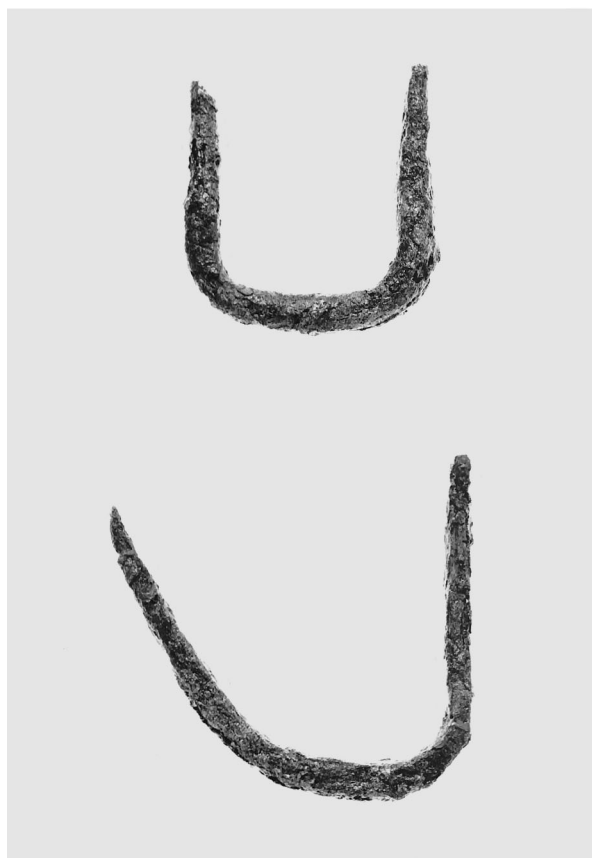
1. RLSP-118出土籃胎漆器の塗膜片（表面）



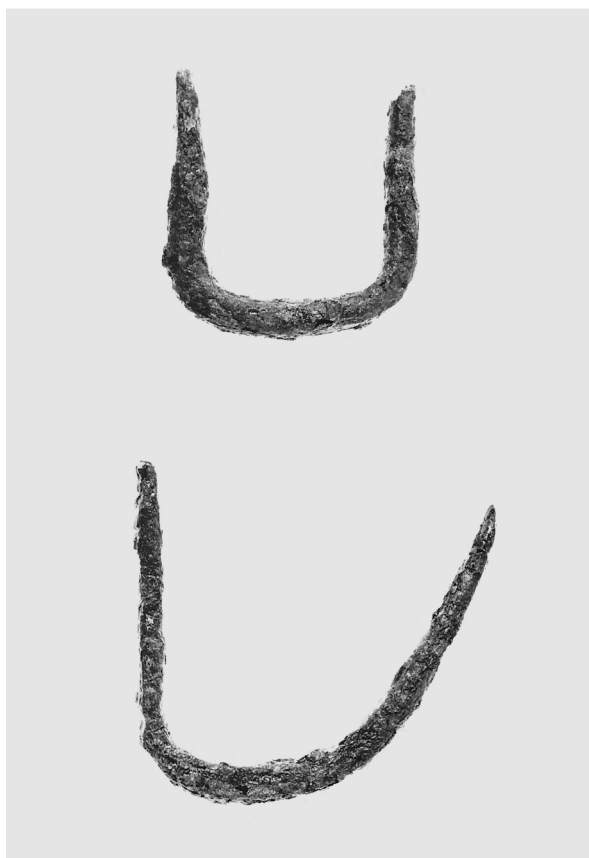
2. 同上（裏面）



1. RLSP-118出土籃胎漆器の塗膜片



2. 金属製品（マレク）表面



3. 同 裏面

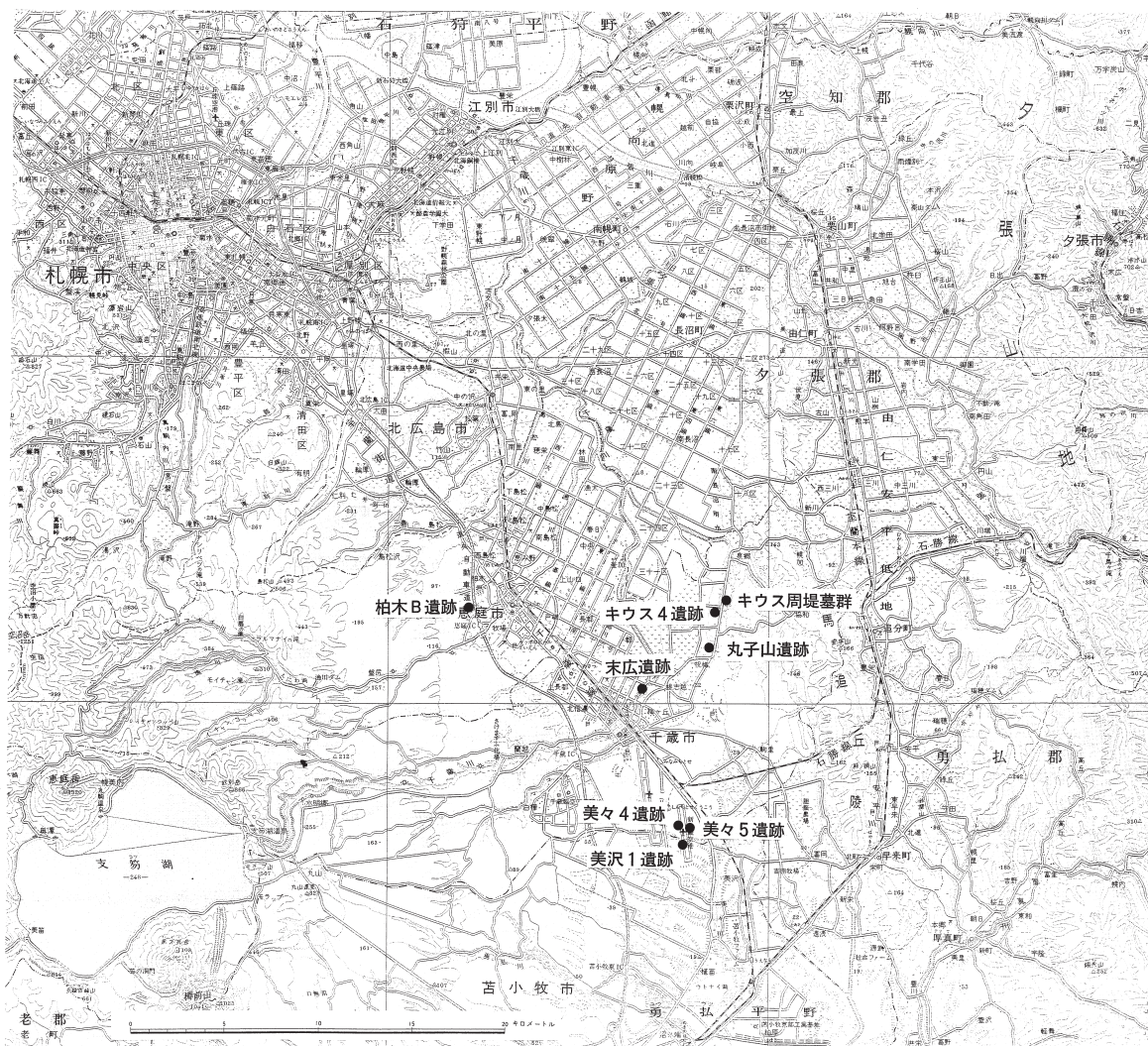
Ⅲ 考察

1. その後の周堤墓研究史

北海道における後期後葉の特徴的な墓制である周堤墓については様々な研究・報告がなされており、筆者も以前に一度まとめたことがあった（藤原2000）。ここでは、主に前稿以後に調査・報告されたものについて再度簡単にまとめる。

①千歳市キウス13号周堤墓

1978年に大谷によりキウス周堤墓群11・12号、丸子山遺跡内の1基とともに位置や規模が報告されたものである（大谷1978）。しかし、「すべてが墓址かどうかについては、…検討の余地がまったくなくはないが…」と断定は避けていた。翌年の1979年にまとめられた『千歳市における埋蔵文化財（上）』（千歳市教委1979）ではこの13号周堤墓も含めて、千歳市内の遺跡の所在地、所有者などが一覧表に記載されている。しかし、この13号周辺は耕作による土地の均平化が進み、現地での所在の確認は困難であった。

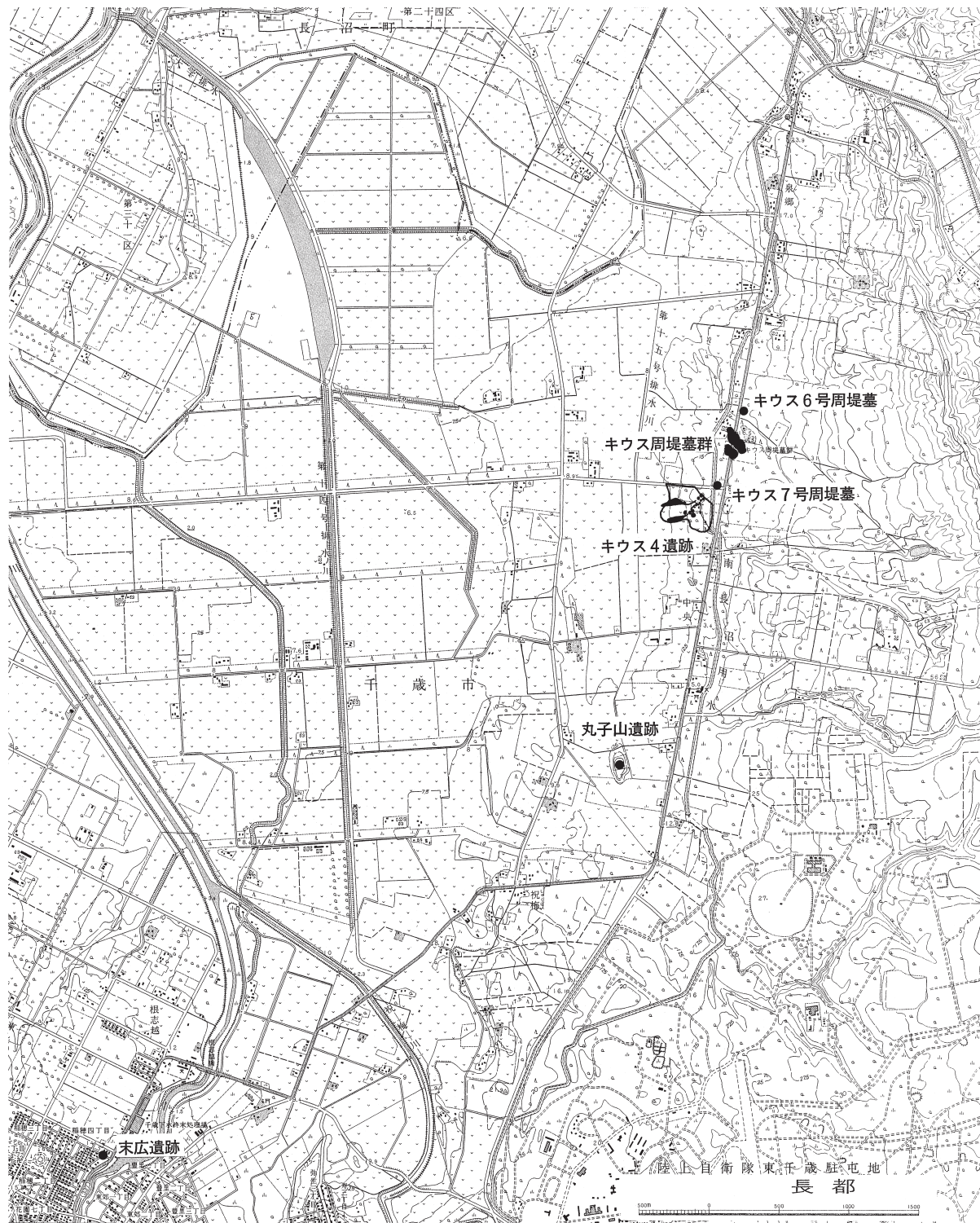


図Ⅲ－1 石狩低地帯における周堤墓の分布

キウス4遺跡(10)

その後、2001年10月に国道337号線道路整備事業にともない、13号所在地の試掘調査が実施された。その結果、13号周堤墓は存在せず、縄文時代後期・晩期を主体とする遺跡であることが判明した。このため、平成13年12月に「キウス13号周堤墓」は「オルイカ1遺跡」と名称変更されている。このオルイカ1遺跡の発掘調査は北海道埋蔵文化財センターにより2002年に実施された（北埋調報188 2003）。調査区には深土耕による円形の大きな攪乱が確認され、これを周堤墓と誤認したと推測される。

なお、石狩低地帯およびキウス周辺における周堤墓の分布を示したものが図Ⅲ－1・2である。



図Ⅲ－2 キウス周辺における周堤墓の分布

② 芦別市野花南周堤墓群（旧称、野花南環状土籬）

1953年芦別郷土研究会発見・調査、1954年河野広道調査の周堤墓である。その後、1999年に北海道埋蔵文化財センターにより測量調査が実施され、実測図が掲載された（北埋調報137 1999）。これ以前の研究史（矢野1998）およびこの図から、野花南環状土籬は2基が隣接して存在することが想定された（藤原前稿など）。そのため、2000年4月に道指定史跡となるに伴ない名称を「野花南周堤墓群」と改称している。

2002年には測量調査に関する報告が佐藤・長谷山によってなされた（佐藤・長谷山2002）。それによると、従来から知られている1号周堤墓は外径23.4m、内径16.7mで周堤幅は3.7～4.2m、新たに存在が推測される2号周堤墓は窪地のみが確認されたため外径・周堤幅は不明で、内径11.4m、竪穴深さは5～12cmほどと紹介されている。また、この他にもう一つ小さな窪みが存在するという。この報告に基づき一覧表の数値を訂正しておいた。

このように、芦別市野花南でも複数の周堤墓が隣接し存在していると推測されている。

③ 標津町伊茶仁チシネ第3竪穴群遺跡

1984年に町教委の踏査で5基が確認されたものである。1997年にその内の1基の発掘調査が実施され、1999年に報告されている（梶田1999）。調査された4号は、外径18m、内径10m、周堤幅4～5m、竪穴掘り込み面からの周堤高さは25～30cm、竪穴深さは10cmである。この4号の約4分の1を発掘した結果、竪穴内からは土壇墓3基、土壇1基の落ち込みが確認された。この内の1基の土壇墓を調査している。墓壇の規模は壇口部で112×43cm、口底部で90×26cm、深さ120cmで長軸方向はN-103°-Wである。墓壇内の長軸方向両端には墓標（木柱？）の痕跡があり、頭側ではそれが炭化している可能性が指摘されている。これはキウス4遺跡X-10のGP-1008例とも共通するものである。壇底面には頭骸骨の痕跡が認められ、西頭位であることが判明した。ベンガラや副葬品は認められなかった。また、埋土上面は摩周火山灰で覆われており、意図的になされたと考えられている。これもキウス4遺跡で埋土上面が非常に堅い墓壇があったことと類似するものであろう。

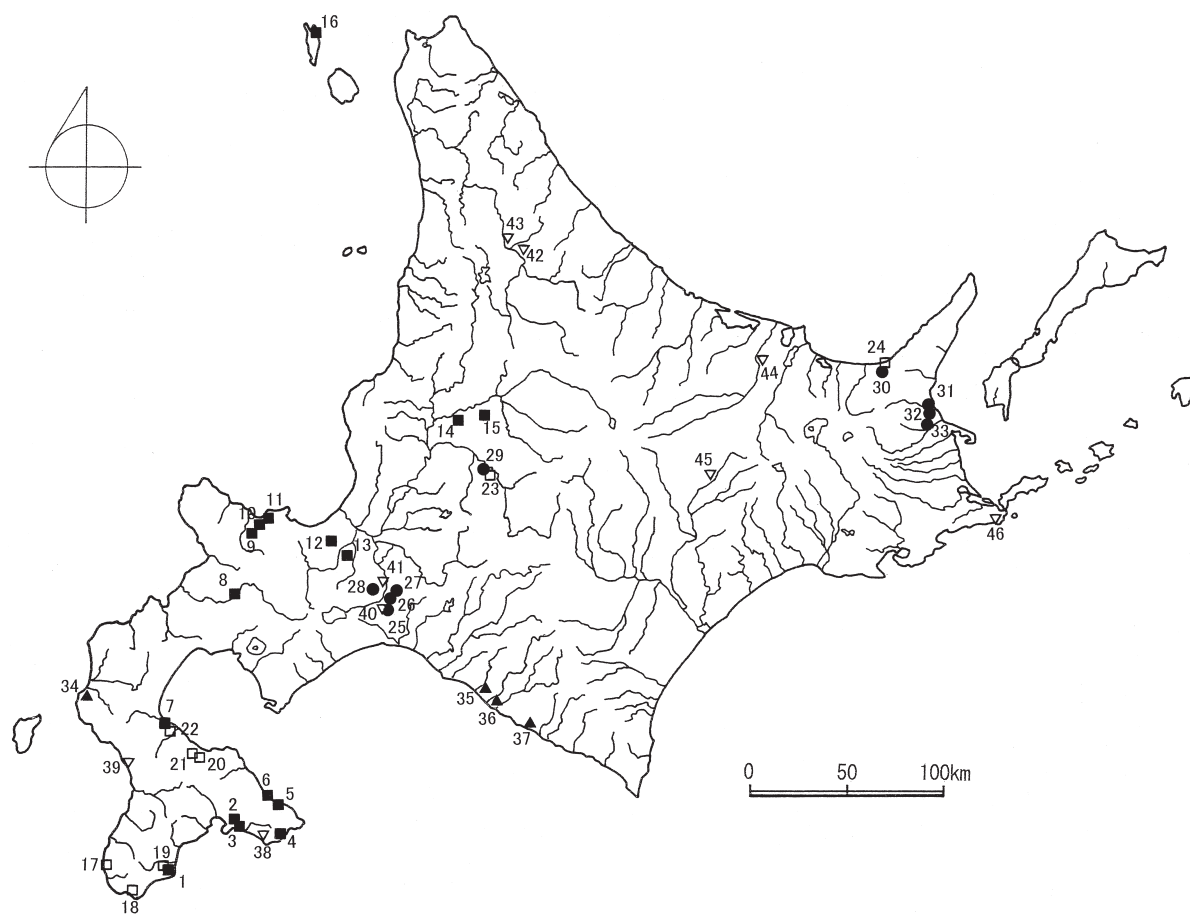
この他に、未発掘の土壇墓2基の長軸外側に墓標（木柱？）と推測される円形の落ち込みが確認されている。なお、竪穴内や周辺から周堤墓に伴う遺物は発見されなかった。

④ 標津町伊茶仁ふ化場第1遺跡

1963年に大場利夫が踏査・発見し、1978年に標津町教委により発掘調査が実施されたものである（標津町教委1979）。この後道路拡張に伴ない、1998年に周堤墓から200mほど離れた地点が町教委により調査された（梶田1999）。その際、周堤墓内の墓壇に規模などが類似する墓が1基検出されている。梶田氏によると、調査区の関係で明確な周堤や竪穴は確認出来なかったが、1963年に発見されたものの他に、もう1基の周堤墓が存在している可能性があるとのことである（標津町教育委員会 梶田氏のご教示による）。

⑤ ロシアの周堤墓類似遺構

シベリア大陸やサハリンに周堤墓である可能性が指摘されていた遺構・遺跡が存在していた。まず、アムール川下流のコンドン村に周堤墓に近いと推測された円形の遺構があったが（加藤1981）、2000年の発掘調査の結果、新石器時代的大型住居であることが判明している（長沼2001）。次に南サハリンのドーリンスキー区ソコル遺跡でも7ヶ所の円形の土塁が存在し、周堤墓の可能性も考えられてい



図Ⅲ－3 北海道における環状列石・周堤墓などの分布

た(野村1997)。これは出入り口が2ヶ所ある特殊なもので、今では旧ソ連時代の軍事施設と推測されている(手塚2001)。また、千島列島北部のオンネコタン島ネモ湾に直径10～18mの周堤を持つ遺構が7基存在しているが、これも軍事施設と推測されている(手塚2001)。このように、かつてロシアに存在するとされた周堤墓の可能性のある遺構・遺跡は、今では全て周堤墓ではないと考えられている。

以上が、前稿以後に調査・発表された知見である。この結果、北海道における周堤墓の総数は68基となった。これを一覧表にしたものが表Ⅲ－2である。また、道内の環状列石や周堤墓などの分布をまとめたものが図Ⅲ－3、表Ⅲ－1である。

これらによると周堤墓は、石狩低地帯に80%以上が集中しており、他に道東部のオホーツク海沿岸にもまとまって存在していることがわかる。一方、道南部では堂林式やそれに相当する時期の遺跡が調査されているが(南茅部町垣ノ島A遺跡、松前町東山遺跡など)、周堤墓の存在は明らかではない。また、道北部や十勝・釧路地方では前稿で述べた通り、堂林式の遺物は散点的に出土するのみで、周堤墓も分布していない。このことから、今後調査例が増加しても、周堤墓は主に道央部の石狩低地帯、内陸部およびオホーツク海沿岸に偏って分布する傾向は変わらないものと考えられる。

表Ⅲ－１ 北海道における環状列石・周堤墓など

■環状列石・配石遺構（墓墳あり）			
1	湯の里 1 遺跡	（後期前葉）	知内町
2	日吉遺跡	（後期中葉）	函館市
3	石倉貝塚	（後期前葉）	函館市
4	浜町 A 遺跡	（後期前葉？）	戸井町
5	八木 B 遺跡	（後期中葉）	南茅部町
6	臼尻 A 遺跡	（後期中葉）	南茅部町
7	浜松 2 遺跡	（後期中葉）	八雲町
	浜松 5 遺跡	（後期前葉）	八雲町
8	曾我北栄環状列石	（後期中葉）	ニセコ町
	曾我滝台遺跡	（後期中葉）	ニセコ町
9	モンガク B 遺跡	（後期中葉）	仁木町
10	安芸遺跡	（後期中葉？）	余市町
	八幡山遺跡	（後期中葉？）	余市町
	西崎山環状列石	（後期中葉）	余市町・小樽市
11	地鎮山環状列石	（後期中葉）	小樽市
	忍路環状列石	（後期中葉）	小樽市
12	N 19（発寒神社）遺跡	（後期？）	札幌市
13	S 94（白石神社）遺跡	（後期中葉？）	札幌市
	S 354 遺跡	（後期？）	札幌市
14	音江環状列石	（後期中葉）	深川市
15	神居古潭 5 遺跡	（後期中葉）	旭川市
16	船泊遺跡	（後期中葉）	礼文町
●周堤墓			
25	美沢 1 遺跡	（後期後葉）	苫小牧市
	美々 4 遺跡	（後期後葉）	千歳市
	美々 5 遺跡	（後期後葉）	千歳市
26	末広遺跡	（後期後葉）	千歳市
27	丸子山遺跡	（後期後葉）	千歳市
	キウス 4 遺跡	（後期後葉）	千歳市
	キウス周堤墓群	（後期後葉）	千歳市
28	柏木 B 遺跡	（後期後葉）	恵庭市
29	野花南周堤墓群	（後期後葉）	芦別市
30	朱円周堤墓	（後期後葉）	斜里町
31	伊茶仁チシネ第 3 竪穴群遺跡	（後期後葉）	標津町
32	伊茶仁ふ化場 1 遺跡	（後期後葉）	標津町
33	伊茶仁カリカリウス遺跡	（後期後葉）	標津町
▲積石墓			
34	生洩遺跡	（後期後葉）	北檜山町
35	緑丘遺跡	（後期後葉）	新冠町
36	静内御殿山墳墓群	（後期後葉）	静内町
37	ホロケ遺跡	（後期後葉）	三ツ石町
▽その他後期の墓墳			
38	釜谷 2 遺跡	（後期後葉）	戸井町
39	小茂内遺跡	（後期後葉）	乙部町
40	美々 4 遺跡	（後期中葉）	千歳市
41	カリンバ 3 遺跡	（後期後葉）	恵庭市
42	智東 4（智東 D）遺跡	（後期中葉）	名寄市
43	ピウカ 2 遺跡	（後期後葉）	美深町
44	北川（一区 4）遺跡	（後期後葉）	端野町
45	上利別 20 遺跡	（後期後葉）	足寄町
46	初田牛 20 遺跡	（後期後葉）	根室市
□環状列石・配石遺構（墓墳なし）			
17	大津遺跡	（後期前葉）	松前町
18	東山遺跡	（後期前葉）	松前町
19	湯の里 5 遺跡	（後期前葉）	知内町
20	倉知川右岸遺跡	（後期前葉）	森 町
21	鷲ノ木 4 遺跡	（後期中葉）	森 町
22	野田生 1 遺跡	（後期中葉）	八雲町
23	野花南熊の沢遺跡	（後期後葉）	芦別市
24	オクシベツ川遺跡	（後期後葉）	斜里町

また、かつてシベリア大陸やサハリンなどに存在するとされた周堤墓に類似する遺構は全て周堤墓ではないことも判明した。そのため、周堤墓という縄文時代後期に特徴的な墓制は、北海道にほぼ限定されるものであるとも言える。

更に、前稿において周堤墓は複数で1単位となり、基本的に単独で存在することは無いとした。これは林などが従来から唱えていたことである(林1979、木村英1981、木村尚1984)。今回、キウス13号が存在しないこと、1基とされていた野花南周堤墓群および伊茶仁ふ化場1遺跡で複数基存在する可能性が指摘されたことで、現在のところ単独で存在する周堤墓の例は全て無くなった。このことから、周堤墓は基本的に複数基が隣接して存在するものであると言える。この複数の周堤墓はキウス4遺跡例から言っても、ある一定期間並存し、同時に墓域として機能していたと推測される。

そして、多くの周堤墓がまとまる国指定史跡キウス周堤墓群やキウス4遺跡では、周堤墓群の分布が大きく2ヶ所に分かれ対になっている。この2つの遺跡のように、継続的に周堤墓が構築された際には、最小単位である2基1単位の並立が再生産され、その結果周堤墓のまとまりも大きく2分されることになったと考えられるのである。

なお、近年道南部を中心に縄文時代後期前葉から中葉にかけての配石遺構や環状列石の報告が増加しているが、それでも周堤墓の分布域と重なることはない(図Ⅲ-3)。このような分布域からだけでなく、前稿でも述べたように、墓域の立地や墓域と集落との位置関係からも環状列石・配石遺構と周堤墓との直接的系譜関係は疑問である。

しかし、最近の論考でも、系統的では無いとの断りはあるが、函館市石倉貝塚の環状盛土遺構と周堤墓の共通性を指摘するもの(小杉2001)や、秋田県伊勢堂岱の環状列石と朱円周堤墓との配石という形態的類似性を強調し、周堤墓の起源とするもの(今村2002)が見られる。

前稿や今回も述べたように、環状列石と周堤墓では構築時期や分布に大きな差異が見られること、初期の周堤墓では配石がほとんど見られず、夙に関連性が指摘される配石や積み石のある朱円周堤墓群や柏木B遺跡のものは後半期もしくは終末期の周堤墓であることから、両者の関連性や系統関係については今のところあまり強調できないと思われる。(藤原)

図Ⅲ－２ 周堤墓一覧

No.	所在地	遺 跡 名	略 号	外 径	内 径	竪穴深さ	周 堤 幅	周堤高さ	平面形	墓 塚 数			時期	出入口	マウンド	備 考	文 献
										竪穴内	周堤上	周堤外					
1	苫小牧市	美沢 1 遺跡	J X－1	15.30×13.00	8.80× 8.10	0.40	3.00～ 2.00	0.02	円形	2			堂林			周堤を形成している状態ではない	美沢川流域の遺跡群Ⅲ
2	苫小牧市	美沢 1 遺跡	J X－2	14.00×13.30	9.00× 8.70	0.20	2.00～ 1.00		円形	4			堂林			周堤なし	美沢川流域の遺跡群Ⅲ
3	苫小牧市	美沢 1 遺跡	J X－3	26.00×22.50	13.20×12.30	0.82	5.50～ 4.00	0.30～0.20	円形	17			堂林～三ツ谷				美沢川流域の遺跡群Ⅲ
4	苫小牧市	美沢 1 遺跡	J X－4	25.50×23.40	14.40×14.20	2.00	5.60～ 8.40	0.65	円形	18			堂林～三ツ谷				美沢川流域の遺跡群Ⅲ
5	苫小牧市	美沢 1 遺跡	K X－1	25.40×22.50	12.35×11.80	0.26	4.00～ 3.50	0.10	円形	10			堂林～三ツ谷			周堤がK X－2 に流れ込む	美沢川流域の遺跡群Ⅲ
6	苫小牧市	美沢 1 遺跡	K X－2		9.08× 7.70	0.30			隅丸方形	0			堂林			未完成、周堤なし	美沢川流域の遺跡群Ⅲ
7	千歳市	美々 4 遺跡	B S－1		12.00×11.50	0.15		0.10	不整形	9			堂林			竪穴不明瞭、B S－1→B S－3	美沢川流域の遺跡群Ⅳ
8	千歳市	美々 4 遺跡	B S－2		11.60× 9.70				長円形	4			堂林			竪穴立ち上がり確認できず、周堤なし	美沢川流域の遺跡群Ⅳ
9	千歳市	美々 4 遺跡	B S－3	20.00×18.50	12.00×10.60	0.50～0.30	4.00～ 2.00	0.20～0.10	円形	11	9		堂林	あり	1 (5.5×5.5/0.4)	溝幅2.5～3.5、中央マウンド上に墓塚 1 基	美沢川流域の遺跡群Ⅳ
10	千歳市	美々 4 遺跡	X－1	16.40×16.10	9.65× 9.20	0.45	3.30～ 2.80	0.20	円形	2			堂林	あり？		X－2・4→X－1	美沢川流域の遺跡群Ⅶ
11	千歳市	美々 4 遺跡	X－2	29.00×26.50	15.90×15.60	1.30	6.70～ 3.60	0.60	円形	15	12		堂林	あり		X－2・4→X－1 他に竪穴内で周堤墓に伴わない墓塚 7 基	美沢川流域の遺跡群Ⅶ
12	千歳市	美々 4 遺跡	X－3	24.80×20.00	11.26× 9.50	0.52	6.20～ 3.80	0.25	楕円形	7			堂林	あり		X－4→X－3 他に竪穴内で周堤墓に伴わない墓塚 7 基	美沢川流域の遺跡群Ⅶ
13	千歳市	美々 4 遺跡	X－4	18.00×17.00	11.00×10.00		3.50		円形	1			堂林			竪穴把握できず X－2・4→X－1	美沢川流域の遺跡群Ⅶ
14	千歳市	美々 4 遺跡	X－6		11.00×10.00	0.42			円形	5			堂林			周堤不明、周堤墓ではない可能性あり X－2→X－6	美沢川流域の遺跡群Ⅶ
15	千歳市	美々 4 遺跡	X－9		10.50×10.30	0.20	10.00	0.10	円形	5			堂林			周堤範囲不明瞭	美沢川流域の遺跡群Ⅸ
16	千歳市	美々 5 遺跡	B X－1		6.20× 4.73	0.17			長円形	2			堂林			竪穴南壁不明瞭	美沢川流域の遺跡群Ⅲ
17	千歳市	末広遺跡	Ⅱ K－1	31.00	17.00	0.50～0.40	7.00	0.60～0.40	円形	9			堂林	あり	1 (6.8×6.3/0.3)		末広遺跡における考古学的調査
18	千歳市	末広遺跡	Ⅱ K－2	25.00	15.00	0.20	5.00	0.17～0.10	円形	10	1		堂林		くぼみ 1 (1.2×1.1)		末広遺跡における考古学的調査
19	千歳市	末広遺跡	Ⅱ K－3	28.00	15.00	0.05	6.50	0.20	円形	2			堂林				末広遺跡における考古学的調査
20	千歳市	丸子山遺跡	1号	26.00	17.00×15.00	0.60	6.70～ 5.50	0.50～0.30	円形	1			堂林	あり	1 (5.6×5.0/1.5)		丸子山遺跡における考古学的調査
21	千歳市	丸子山遺跡	2号	18.00	13.00	0.25～0.20	4.00～ 2.70	0.15	円形	4			堂林	あり？		2号→1号	丸子山遺跡における考古学的調査
22	恵庭市	柏木 B 遺跡	第 1 号	21.00×20.40	12.60×11.60	0.42～0.30	4.60～ 3.70	0.45～0.15	円形	21	18	5	三ツ谷	あり		1号→2号	柏木 B 遺跡
23	恵庭市	柏木 B 遺跡	第 2 号		9.68× 8.76	0.25～0.15			円形	11			三ツ谷			周堤の広がり確認できず	柏木 B 遺跡
24	恵庭市	柏木 B 遺跡	第 3 号		11.64×11.16	0.10～0.05			円形	8			三ツ谷				柏木 B 遺跡
25	恵庭市	柏木 B 遺跡	第 4 号		12.20				不明	7			三ツ谷				柏木 B 遺跡
26	恵庭市	柏木 B 遺跡	第 5 号		12.20				不明	3			三ツ谷				柏木 B 遺跡
27	千歳市	キウス周堤墓群	1号	37.00×26.00	17.00×16.00	2.00～	10.00		隅丸方形	5			三ツ谷～御殿山	あり		竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
28	千歳市	キウス周堤墓群	2号	75.00×65.00	32.00	5.40～	21.50～16.50		円形	7			三ツ谷～御殿山	あり		竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
29	千歳市	キウス周堤墓群	3号	50.00	30.00	0.90～	10.00		円形					あり		竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
30	千歳市	キウス周堤墓群	4号	75.00	45.00	2.60～	15.00		円形			1		あり		竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
31	千歳市	キウス周堤墓群	5号	47.00	28.00×26.00	1.00～	10.50～ 9.50		円形					あり		竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
32	千歳市	キウス周堤墓群	6号	45.00	25.00×22.00	0.90～	11.50～10.00		円形							竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
33	千歳市	キウス周堤墓群	7号	45.00	28.00	1.30～	8.50		円形	7						竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
		キウス周堤墓群	8号													1998登録抹消、キウス 4 遺跡内に存在	キウス 4 遺跡 (5)
		キウス周堤墓群	9号													1998登録抹消、キウス 4 遺跡X－6 に相当	キウス 4 遺跡 (5)
		キウス周堤墓群	10号													1998登録抹消、キウス 4 遺跡X－4 に相当	キウス 4 遺跡 (5)
34	千歳市	キウス周堤墓群	11号	45.00	25.00	0.70～	10.00		円形					あり		竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
35	千歳市	キウス周堤墓群	12号	30.00	16.00	0.50～	7.00		円形					あり		竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	大谷1978
		キウス周堤墓群	13号														大谷1978、2001年登録抹消
36	千歳市	キウス 4 遺跡	X－1	32.00	19.00	0.50	6.50	0.20	円形	7			堂林		1 (6.0×6.0/0.20～0.10)	周堤頂部削平	キウス 4 遺跡
37	千歳市	キウス 4 遺跡	X－2	31.00	19.00	0.70	6.00	0.20	円形				堂林			竪穴部深さは内側Ⅰ 黒層上面と周堤頂部、周堤高さは外側との比高差	キウス 4 遺跡
38	千歳市	キウス 4 遺跡	X－3	19.00	10.00	0.60	4.50	0.40	円形				堂林			竪穴部深さは内側Ⅰ 黒層上面と周堤頂部、周堤高さは外側との比高差	キウス 4 遺跡
39	千歳市	キウス 4 遺跡	X－4	41.00	27.00	0.62～0.35	7.00	0.30～0.10	円形	9			堂林		2 (6.0×6.0/0.3、5.0×4.5/0.2)	周堤頂部削平	キウス 4 遺跡
40	千歳市	キウス 4 遺跡	X－5	20.00	14.00	0.30	3.00	0.20	円形				堂林			周堤頂部削平	キウス 4 遺跡
41	千歳市	キウス 4 遺跡	X－6	28.00	17.00	0.35～0.27	5.50	0.20	円形				堂林			周堤頂部削平	キウス 4 遺跡
42	千歳市	キウス 4 遺跡	X－7	20.00	13.00	0.40～0.20	3.50	0.20	円形				堂林			周堤頂部削平	キウス 4 遺跡
43	千歳市	キウス 4 遺跡	X－10	23.38×23.16	16.56×15.16	0.31～0.25	3.56～ 3.18	0.31	円形	14			堂林		1 (2.8×2.8/0.15)		キウス 4 遺跡 (5)
44	千歳市	キウス 4 遺跡	X－11	20.45	12.56	0.38～0.14	3.84～ 3.04	0.14	円形	7			堂林	あり	1 (6.0×6.0/0.05)	X－12→X－11	キウス 4 遺跡 (5)
45	千歳市	キウス 4 遺跡	X－12	13.92×13.28	8.64× 8.00	0.24～0.16	2.80～ 2.40	0.16	円形	2			堂林			X－12→X－11、X－12→直線状盛土	キウス 4 遺跡 (5)
46	千歳市	キウス 4 遺跡	X－13	11.48×10.44	6.89× 6.48	0.20～0.10	2.42～ 1.86	0.00	円形	1			堂林			X－13→X－11	キウス 4 遺跡 (5)
47	千歳市	キウス 4 遺跡	X－14	10.08	6.00	0.10	2.30～ 2.00	0.00	円形	1			堂林				キウス 4 遺跡 (5)
48	千歳市	キウス 4 遺跡	X－15	10.84×9.84	6.04× 5.40	0.07	2.52～ 1.92	0.07	円形	3			堂林				キウス 4 遺跡 (5)
49	千歳市	キウス 4 遺跡	X－16	8.50	5.50				円形				堂林				キウス 4 遺跡 (5)
50	千歳市	キウス 4 遺跡	X－17	17.82×16.25	9.44× 8.68	0.48～0.26	3.88～ 2.92	0.15	円形	5			堂林	あり	1 (5.0×5.0/0.18)		キウス 4 遺跡 (5)
51	千歳市	キウス 4 遺跡	X－a	28.50×25.00	16.50×15.50	0.26～0.11	8.60～ 3.70	0.46～0.30	円形				堂林			竪穴部深さは内側と、周堤部高さは外側と周堤頂部との比高差	キウス 4 遺跡 (5)
52	千歳市	キウス 4 遺跡	X－b	33.80×32.50	17.90×15.80	0.26～0.00	10.60～ 7.00	0.28～0.17	円形				堂林			竪穴部深さは内側と、周堤部高さは外側と周堤頂部との比高差	キウス 4 遺跡 (5)
53	千歳市	キウス 4 遺跡	X－c	27.50×18.50	10.00× 8.90	0.38～0.07	8.80～ 4.00		円形				堂林			竪穴部深さは内側と周堤頂部の比高差	キウス 4 遺跡 (5)
54	千歳市	キウス 4 遺跡	X－d	25.00	16.00				円形				堂林				キウス 4 遺跡 (5)
55	千歳市	キウス 4 遺跡	X－α		11.50				不明	4			堂林				キウス 4 遺跡 (5)
		キウス 4 遺跡	X－β		9.00				不明	2			堂林				キウス 4 遺跡 (5)
56	芦別市	野花南周堤墓群	1 号	23.40	16.70	0.32	4.20～ 3.70	0.17	円形	3			堂林				新芦別市史、佐藤・長谷山2002
57	芦別市	野花南周堤墓群	2 号		11.40	0.12～0.05			円形	1			？				滝里遺跡群Ⅸ、佐藤・長谷山2002
58	斜里町	朱円周堤墓群	A 号	28.00×27.00	22.00×21.00				円形	20			御殿山				斜里町史、河野広道ノート1981
59	斜里町	朱円周堤墓群	B 号	44.48×41.60	27.10×22.38	0.66～0.45	12.10～ 6.70		円形	1			御殿山			竪穴部深さは床面と周堤頂部の比高差	斜里町史、河野広道ノート1981
60	標津町	伊茶仁ふ化場 1 遺跡		31.50×27.50	20.00	0.30	8.00～ 3.00	0.20	円形	2			堂林	あり			標津の竪穴Ⅱ
		伊茶仁ふ化場 1 遺跡															標津町教委、榎田氏の告知による
61	標津町	伊茶仁チシネ第 3 遺跡	1 号	18.00	11.00	～0.30	4.00～ 3.00	0.49～0.30	方形？							竪穴部深さは内側と、周堤部高さは外側と周堤頂部との比高差	標津の竪穴Ⅷ
62	標津町	伊茶仁チシネ第 3 遺跡	2 号	20.00	10.00	～0.30	5.00	0.39～0.30	円形							竪穴部深さは内側と、周堤部高さは外側と周堤頂部との比高差	標津の竪穴Ⅷ
63	標津町	伊茶仁チシネ第 3 遺跡	3 号	31.00×25.00	19.00×16.00	0.40～0.20	6.00～ 4.00	0.50～0.00	楕円形					あり？		竪穴部深さは内側と、周堤部高さは外側と周堤頂部との比高差	標津の竪穴Ⅷ
64	標津町	伊茶仁チシネ第 3 遺跡	4 号	18.00	10.00	0.30～0.20	5.00～ 4.00	0.30～0.25	円形	3						中央にくぼみ	標津の竪穴Ⅷ、榎田1999
65	標津町	伊茶仁チシネ第 3 遺跡	5 号	15.00	6.00×	0.40～0.30	7.00～ 5.00	0.60～0.10	円形							竪穴部深さは内側と、周堤部高さは外側と周堤頂部との比高差	標津の竪穴Ⅷ
66	標津町	伊茶仁カリカウス遺跡	無名川	17.00	10.50	0.40～0.10	3.50～ 2.00		楕円形								榎田1996
67	標津町	伊茶仁カリカウス遺跡	カリカウス川Ⅰ		10.00				円形								榎田1996
68	標津町	伊茶仁カリカウス遺跡	カリカウス川Ⅱ		10.00				円形								榎田1996

※「竪穴深さ」での斜数字は、竪穴床面から周堤頂部までの比高差。※「墓塚数」での斜数字は全掘していないため、まだ増える可能性のある数。